

授業科目名	小児看護学実習	担当教員	学内講師 木村真司		
開講年次及び学期	3年 後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	90	単位数	2

### 授業の目的（概要）

疾患や障がいを持つ子どもを全人的に理解し、子どもとその家族に必要な看護を、個々の成長・発達や健康状態に応じて考え、論理的根拠のもとに実践するための基礎的能力と態度を養う。

### 学修成果（到達目標）

1. 子どもを一人の人間として尊重し、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。
2. 子どもおよび家族と援助的人間関係を築くことができる。
3. 子どもの疾患、検査、治療について理解できる。
4. 子どもの身体的影響について、小児看護技術を用いて観察、測定し、意図的に情報を得ることができる。
5. 子どもと家族の心理・社会的影響について、発達段階、疾患や障がいの状態、入院、家族関係などをふまえ、意図的に情報を得ることができる。
6. 子どもと家族の入院前、退院後の生活について情報を得ることができる。
7. 子どもと家族の情報（主観的・客観的）をもとに、論理的根拠をもってアセスメントできる。
8. アセスメントをもとに看護関連図を描き、看護上の問題を特定（抽出・統合）できる。
9. 看護上の問題に対する目標を明確にし、発達段階や疾患の状態、入院環境、生活リズムなどを考慮した個別性のある看護計画を具体的に立案できる。
10. 立案した看護計画を子どもの状態にあわせて安全、安楽に実施するための準備（ケアの事前練習、戦略的な行動計画等）を行うことができる。
11. 立案した看護計画（行動計画）を子どもの状態にあわせて安全（十分な事故防止への配慮）、安楽に実施することができる。
12. ケアの実施時は、事前に子どもと家族に説明し、同意を得ることができる。
13. 実施した看護の評価を行い、必要に応じて看護計画を修正できる。
14. 多職種による支援に参加し、医療、教育、保健、福祉における望ましい連携・協働について考えることができる。
15. 保健医療チームの一員として、子どもと家族の生活やニーズに添った退院支援を実施できる。
16. グループカンファレンスにおいて自己の学びや考えを共有するために、積極的に発言することができる。
17. 情報管理を確実にし、個人情報保護につとめることができる。
18. 教員や指導者に適切に報告・連絡・相談することができる。
19. 積極的な挨拶や適切な言葉使い、身なり、態度で実習し、無断で遅刻や欠席をせず、集合時間や提出物の期限を守ることができる。
20. 看護者としての自己を評価し、課題を具体的に述べるることができる。

### キーワード

小児看護 実習 看護過程

### 授業の進め方

臨地において、対面で実施する。  
 詳細はmoodleの「臨地実習の手引き」を参照。  
 フェーズが上がった場合には、実習内容を変更してオンラインも含めて実施する可能性がある。

### 成績評価の方法（合否基準）

学修成果の到達度（実習への取り組み、実習態度、実習記録の提出状況、記録内容、カンファレンスへの参加状況等）により評価し、100点満点に換算した60点以上を合格とする。

### 教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

実習中に適宜示す。

### オフィスアワー

適宜

メールでも連絡可（s-kimura@~）。グループと名前を明記してください。

## モデル・コア・カリキュラムとの関連

### D-1-1) 看護の基礎となる対人関係の形成

ねらい：看護の対象となる人との関係を形成する意義と方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 看護の目的意識をもって対象者に関心を寄せることができる。
- ② 言語表現・非言語表現を用いた対象者との相互作用を通して関係を形成することができる。
- ③ 対象者の様々な特性や多様性に応じた関係を形成することができる。

### D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握

ねらい：対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する身体的・精神的な側面、環境との関係の側面、成長・発達の側面）を収集し、看護の視点から統合して対象者の経験や望み（意向）を共有しながらアセスメントする方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集できる。
- ② 得られた情報を系統的・継続的に整理し、アセスメントできる。
- ③ アセスメントに基づき対象者の全体像を描くことができる。
- ④ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験してきたことや望み（意向）を共有しニーズの把握につなげることができる。
- ⑤ 全体像を描きながら対象者のニーズを見いだすとともに優先順位を決定できる。

### D-1-3) 計画立案・実施

ねらい：アセスメントに基づく個別性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護実践の方法を学ぶ。

学修目標：

- ① 看護の視点から見いだされた対象者のニーズに対応する目標を示すことができる。
- ② 目標を遂げるための要件を示し、看護計画を立案できる。
- ③ 目標・要件に応じた評価日を設定して示すことができる。
- ④ 基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践に応用できる。
- ⑤ 対象者がより良い方法を選択する過程を支えることができる。
- ⑥ 対象者（状況に応じて対象者と家族）の経験や望み（意向）、強み（ストレングス）、ウェルネスを治療方法の選択や生活と関連付けて考えることができる。

### D-1-4) 実施した看護の評価

ねらい：看護過程全体を振り返ることによる、実施した看護の成果に対する評価を学ぶ。

学修目標：

- ① 実施した看護を評価する意義を理解できる。
- ② 実施した看護を評価できる。
- ③ 評価の基準に基づき、目標の達成状況を確実に評価できる。
- ④ 評価に基づき、看護計画を修正できる。
- ⑤ 実施した看護の振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。

### D-3-2) 小児期にある人々に対する看護実践

ねらい：小児期は、新生児期から乳幼児期、学童・思春期、更に青年期に至るまでの目覚ましい成長・発達段階にある。家族との愛着形成を基盤に、自己概念の形成、セルフケア獲得、社会生活への適応等の発達を遂げることを理解し、子どもと家族の健康習慣の形成、健康状態に応じた養育や生活の調整、安全・安楽の保持等により、子どもが自分らしい生活を実現できるよう看護実践を学ぶ。

学修目標：

- ① 子どもの権利擁護の重要性を理解し、看護を実践できる。
- ② 子どもの成長・発達に関してアセスメントできる。
- ③ 成長・発達段階に適した看護実践の方法を見いだすとともに、セルフケア獲得等の成長・発達そのものを家族とともに支える看護を実践できる。
- ④ 子どもの成長・発達と健康上の課題を統合するとともに、病院や家庭、学校等の場に応じた対象者のニーズを捉えて看護を説明できる。
- ⑤ 病気や入院生活が子どもに及ぼす影響を理解し、苦痛の緩和、安全・安楽の保持を基本とする看護を説明できる。
- ⑥ 子どもに特有な看護技術を理解し、対象者に適した方法で実践することについて説明できる。
- ⑦ 様々な病期・症状・治療に応じた子ども（医療的ケア児を含む）の特徴を理解し、必要な看護を説明できる。
- ⑧ 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。
- ⑨ 子どもの病気や入院生活が家族に及ぼす影響を理解し、病状や発達段階、家族の特性に応じて家族全体への看護を説明できる。
- ⑩ 虐待等、特別な状況にある子どもや家族、社会の特徴を理解し、必要な看護を理解できる。
- ⑪ 成人移行期における治療継続や自分らしい生活の実現のための看護を説明できる。

## 準備学修に必要な学修の時間

各講義の中で指示します。

# 授業計画

		8:30～	15:00～	15:30	～16:30
第 1 週	月	保育所実習の振替日		オリエンテーション	
	火	受持ちの子どもの紹介 病棟実習(情報収集, 情報整理, アセスメント)	病棟実習	カンファレンス	記録整理 (学内)
	水	病棟実習(同上)	病棟実習	カンファレンス	記録整理 (学内)
	木	病棟実習(同上)	病棟実習	保育所実習の振替日	
	金	病棟実習(アセスメント, 看護計画立案)	学内:看護関連図・看護計画発表		
第 2 週	月	病棟実習(看護計画の実施, 評価, 修正)	病棟実習	カンファレンス	記録整理 (学内)
	火	病棟実習(同上)	病棟実習	カンファレンス	記録整理 (学内)
	水	病棟実習(同上)	病棟実習	カンファレンス	記録整理 (学内)
	木	病棟実習(同上)	病棟実習	実習のまとめ	記録整理 (学内)
	金	保育所実習の振替日			